

山城翠香

短命のジャーナリスト

Suiko Yamashiro

山城翠香

短命のジャーナリスト



高良勉 著
Bon Takara

不二出版

二〇二四年三月刊行

ジャーナリスト・元沖縄タイムス社長

新川明 推薦

近現代日本思想史・言論史 琉球大学名誉教授

比屋根照夫 推薦

不二出版

定価 3,080 円 (本体価格 2,800 円 + 税 10%)

ISBN978-4-8350-8585-2 C3095

編著

高良勉

近代沖縄の言論人 山城翠香初の評伝集

近代沖縄の言論界・思想界で活躍した山城翠香（1882〈明治15〉年—1919〈大正8〉年）。

〈沖縄〉のアイデンティティーをめぐる、国家主義や民族主義を超えて、アジア、そして世界に開かれた位置から独自の思想を紡いだ。

伊波月城、末吉麦門冬らとの澆刺とした交流や、ニーチェ、ショーペンハウアーなど世界哲学への共鳴、〈日本〉、そして〈近代〉へのラディカルな構えなど、短い生涯に凝縮された翠香の思想と営為の全貌が明かされる。

本書目次

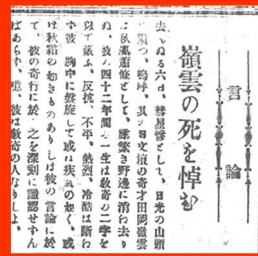
- 序文 奇跡的に一まえがき—（高良勉著）*本書書き下ろし
〈I〉山城翠香論（高良勉著）*単行本初収録
〈II〉『机上餘瀝』抄（山城翠香著／高良勉編）*単行本初収録多数
〈III〉山城翠香セレクション（山城翠香著／高良勉編）*単行本初収録多数
〈IV〉「編輯日誌」「編輯の後」一覧（山城翠香著／高良勉編）*単行本初収録
補論 山城翠香と田岡嶺雲（高良勉著）*本書書き下ろし
あとがき（高良勉著） 山城翠香略年譜 山城翠香「机上餘瀝」目録
*付録しおり 「山城翠香」（比屋根照夫）／「田岡嶺雲と沖縄」（西田勝）

近代沖縄の黎明期に一条の光りを放って生きた言論人の全航跡を明らかにする好著。現役のジャーナリストはもとより一般読者にも必読書として推奨したい一冊である。

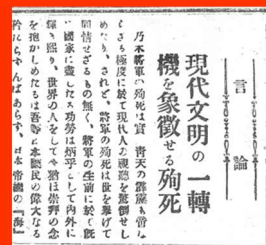
新川明（ジャーナリスト・元沖縄タイムス社長）

沖縄近代思想史に関心を持つ人々に本書が読まれることを期待したい。山城は旧時代から新時代へと転換する明治末期に、『沖縄毎日新聞』紙上で活躍した新進の明治言論人であった。時代は新進の言論人の活躍を求める琉球ルネッサンスへ突入しつつあった。（中略）翠香がいう「悲哀」とは明治政府の無為無策によって放置された琉球、あるいは明治社会で差別・疎外された琉球の実像に根差すものであった。明治国家の「帝国主義」、国家主義、同化主義等々への翠香の根底的な批判はこの地点から開始される。こうした思想潮流のなかで、翠香は月城らとともに論陣を張り、新沖縄建設へ向けて奮闘する。高良氏の編著は翠香の生涯を詳細に追究し、沖縄言論史上に消えた短命のジャーナリストの肖像を活写している。ご一読を薦めたい。

比屋根照夫（近現代日本思想史・言論史 琉球大学名誉教授）



山城翠香「嶺雲の死を悼む」
（『沖縄毎日新聞』大正元年9月22日）



山城翠香「現代文明の一転機を象徴せる殉死」
（『沖縄毎日新聞』大正元年9月26日）

注文カード	注文日 月 日	帖合・貴店名	書名	注文数
			高良勉 編著 山城翠香 短命のジャーナリスト 定価 3,080 円（本体価格 2,800 円+税 10%） ISBN978-4-8350-8585-2 C3095	冊 お名前
		条件：注文扱・返条付	発行＝不二出版	
		ご担当者様		